

令和5年度
大分県立農業大学校
第1回 外部評価委員会



と き:令和5年6月6日(火)
と ころ:農業大学校会議室

次 第

1 開 会

2 外部評価委員紹介

3 学校長あいさつ

4 本校職員紹介

5 議 事 （進行：委員長）

（1）報告事項

令和4年度重点目標等の取り組み結果について

（2）審議事項

令和5年度運営方針を踏まえた数値目標と主な対策について

（3）その他

6 閉 会

諸連絡

令和4年度 重点目標と具体的取り組み結果について

運営方針1 活気あふれる学園づくり

【数値目標】 基礎学力を備えた入学生の確保：60名

評価：目標を未達成 合格者36名(35名入学)

1 令和4年度入学試験実施状況と合格者数

(1) 推薦入試・一般入試・二次入試

	実施日	受験者数	合格者数	()内は女子
推薦入試	10/19	31名(7名)	28名(7名)	
一般入試	12/20	10名(0名)	7名(0名)	
二次入試	2/21	1名(0名)	1名(0名)	
計		42名(7名)	36名(7名)	

(2) 過去5年間の受験者数と入学者数

年度	H31	R2	R3	R4	R5
受験者数	39名	45名	42名	33名	42名
入学者数	36名	41名	37名	31名	35名

(3) 過去5年間の農業系学科出身者の入学者数

年度	H31	R2	R3	R4	R5
農業系学科出身	25名	26名	24名	21名	24名
対入学者比(%)	69.4	63.4	64.9	75.0	68.5

2 県内全高校への訪問と農大進学への働きかけ

(1) 県内全高校への学生募集

対象校：公立23校・私立9校 計32校

実施回数：延べ63回

- ・県内高校3年生に農大紹介リーフレット配布、学校、受験案内、進路ガイダンスオープンキャンパス案内
- ・農大卒業生の就職・就農状況並びに4年生大学編入状況などの情報を提供

(2) 高大連携事業

遠隔システムを活用して農業系高校の1・2年担当教員への農大紹介及び在校生との懇談

参加者数：高校1年担任等 12名 2年担任等 22名
本校教員 2名 学生 3名

(3) 進路ガイダンスへの参加

公立8校 10回実施 (日出総合、臼杵、佐伯豊南、三重総合、久住高原農業、
玖珠美山、安心院、中津南耶馬溪校)
私立3校 3回 (明豊、大分、藤蔭)

地域ガイダンス3回 大分地区 2回 佐伯地区 1回

(4) 進路指導担当を対象とした農大説明会

新型コロナウイルス感染拡大のため実施せず。

(5) オープンキャンパス「緑の学園」への参加者拡大

生徒：第1回目(6/25) 27名(前年28名)

第2回目(8/1) 77名(前年59名)

計104名(前年87名)

保護者・教員：第1回21名、第2回36名 計57(前年41名)

総計161名(前年128名)

3 情報発信の取り組み

(1) フェイスブックによる情報発信

・FB記事数 150 フォロワー886人(令和3年3月現在)
(対前年：116%) (対前年：107%)

(2) ・新聞掲載 8件

(3) ・テレビ放送5件(OABれじゃぐる、TOSイブニングワイド)

・OAB そらぼファームを設置。定期的なれじゃぐる(毎週土曜日12:00)内
及びOAB感謝祭にて、稲(なつほのか)の栽培や収穫状況を放送。

・TOSでは日頃の授業風景や葉ボタンの染色に挑む学生を取り上げてもらった。

(4) 市町村、JA、JR等への募集ポスター掲示等依頼

県内18市町村役場、JA27事業所・支所 金融機関

計400枚配布

(5) スタディサプリ「リクルート」

延べ72名の方より学校案内、募集要項の資料請求があった。

5 高大連携の促進

(1) 三重総合高校との連携

・三重総合高校への出前授業派遣 計 5日間(2年生対象)

- ・農大での実習 1年生6日 2年生4日
- (2) 農業系高校1年生農大体験研修の実施
 - ・農業系高校1年生農大体験研修 8校10学科
 - 国東（園芸ビジネス・環境土木）、大分東（園芸ビジネス・園芸デザイン）
 - 佐伯豊南、久住高原農業、玖珠美山、日田林工、宇佐産業科学 三重総合
- (3) 高校PTAによる農大視察
 - ・大分東高校、久住高原農業高校 2校
- (4) 「くじゅうアグリ創生塾」との連携
 - ・農業技術実践研修1回（2コース）

運営方針2 質の高い教育の提供

【数値目標】○日本農業技術検定3級相当の専門知識習得者80%以上

○在学中に5個以上の資格取得者80%以上

評価：目標を未達成 日本農業技術検定3級以上取得者 69.4%
 在学中に5個以上の免許・資格取得者 52.7%

1 農業技術検定3級相当の専門知識習得者80%以上

(1) 農業技術検定試験に向けて、畜産・野菜で補講を実施

令和4年度中に新たに資格を取得した学生 3級6名 2級5名

2 在学中に5個以上の資格取得をした学生80%以上

(1) 本校学生が受験した免許・資格数 21講座

免許・資格5個以上取得者 19名（令和4年度卒業生）

<参考>

(1) 試験研究・普及組織との連携によるプロジェクト研究活動

・学生プロジェクトの設計検討、中間検討、成績発表への農林水産研究指導センターの研究者や広域普及指導員の参加による連携

○令和4年度九州農業大学校等プロジェクト・意見発表大会出場

3年ぶりの集合開催（ウェブ参加とのハイブリット開催）大分県で開催

・プロジェクト発表の部（1題）

「おおいた和牛の生産を目指した飼料給与技術の検討」

～人工乳の採食量を増やし増体を高める～ 総合畜産科 2年男子

・意見発表の部（1題）

「昨日まで世界になかったもの」への挑戦

～兄のプロジェクト研究が残した課題を紡ぎ、大田農園の可能性を広げる～

総合農産科 1年男子

- (2) 農業法人等の期待に応えられる学生の育成
- ・総合経営特別講座の実施
講座：企業経営論、アグリビジネス論、消費者ニーズとマーケティング、農業簿記、農業経営分析、農村社会学
2年生4名が受講（将来自営を希望する学生）
- (3) GAP手法の習得とGAP認証取得
- ・水稲、畜産でJ-GAPを取得
 - ・水田・露地野菜クラス、総合畜産学科の学生を対象に認証取得に向けてコンサルティングを3回実施
- (4) その他、学生の資質向上に向けた取組結果
- ・フラワーデザインコンテストへの参加（第14回めじろんカップへ参加）
大分県知事賞：1年女子、大分県職業能力開発協会賞：1年男子
大分合同新聞社長賞：1年男子、TOSテレビ大分社長賞：2年女子
奨励賞：2年女子、1年男子 をそれぞれ受賞。

運営方針3 新規就農者の確保

【数値目標】 全学生・研修生の進路決定と就農率80%以上

評価：目標をほぼ達成 進路内定率91.9%（農学部100% 研修部77.8%）
就農率 65.3%（農学部58.8% 研修部77.8%）

1 農学部

(1) 進路状況

① 進路内定状況（令和5年3月末現在）

	対象者	進路内定	うち就農				JA・公務員	関連企業	進学等	就農率(%)
			自営	法人等	研修	計				
学生	34	34	3	16	1	20	8	4	2	58.8

② 農学部過去5年間の就農率(%)

	H30	R1	R2	R3	R4	平均
就農人数	31	41	24	33	20	30
就農率	60.8	73.2	75.0	76.7	58.8	68.9

(2) 就職支援及び進路先の開拓

① 進路コーディネーターによる農業法人との連携強化

学生支援と進路相談の随時実施

- ・ 2年生対象：6月進路面談、随時個別面談
- ・ 1年生対象：12月進路面談、2月三者面談

③ 農業法人との就職相談会を開催

就職相談会の開催：令和3年6/7、6/8 (計2日)

49 団体

④ インターンシップの促進

- ・ 31 法人へインターンシップ実施 のべ42名が参加

2 就農・就職支援研修部生進路状況

(令和5年3月末現在)

	対象者	進路内定	うち就農				他産業	内定率 (%)	就農率 (%)
			自営	法人等	研修	計			
就農準備研修	18	14	12	2	0	14	0	77.8	77.8

① 振興局・関係団体との連携会の開催 (4回)

- ・ 4月8日 7月8日 9月5日 3月7日

② 法人等農家研修 (延べ20名参加)

- ・ 農家研修 (7/25~8/31 (3班):前期5農家、6名研修)
(1/26~3/3 (随時):後期13農家、14名研修)
- ・ 農業法人視察研修 (6/27、7名参加)
大分ほっぺリーフ、(有)藍澤農園、(有)ハーブガーデン
- ・ 豊肥地域現地研修会 (8/10、14名参加)
インキュベーションファーム、荻トマト、竹田市FS
- ・ 臼杵市ピーマン学校視察研修 (10/12、14名参加)
- ・ 全国和牛能力共進会視察研修 (10/5~9、4名参加)
鹿児島県霧島市等

③ 農業法人との就職相談会

- ・ 6/8 農業法人就職相談会 (2名)
- ・ 8/20 就農応援フェア (2名)
- ・ 2/19 農業法人等合同就職説明会 (3名)

④ 市町との就農相談

- ・ 国東市、杵築市、豊後大野市、臼杵市、由布市、宇佐市及び振興局、JA と随時就農相談

⑤各種免許、資格等取得促進による就農支援

令和4年度農業大学校学生・就農準備研修生免許資格等取得状況

免許・資格等種類	学生		研修生		合計	
大型特殊免許（農耕車限定）	31	名	14	名	45	名
けん引免許（同上）	21	名	4	名	24	名
フォークリフト運転技能講習	19	名	4	名	23	名
アーク溶接作業特別	15	名	6	名	21	名
ガス溶接技能講習	5	名	1	名	6	名
ボイラー取扱技能講習	6	名	5	名	11	名
車両系建設機械運転技能講習	8	名	3	名	11	名
小型車両系建設機械特別教育	17	名	13	名	30	名
土壌医検定試験	17	名	10	名	27	名

(2) 審議事項

令和5年度 運営方針・数値目標・主な対策

運営方針1 活気あふれる学園づくり

【数値目標】基礎学力を備えた入学生60名の確保

《主な対策》

- 1 高校進路指導および高校生への積極的な働きかけ
 - (1) 過去5年間に入学実績のあった県内の高校(31校)やオープンキャンパスへの参加者、資料請求のあった者の高校への訪問
(卒業後の就職先の情報、4年制大学への編入状況など積極的に提供)
 - (2) 進路ガイダンスへの積極的な参加と学校説明会の実施
 - (3) オープンキャンパス「緑の学園」への参加者拡大
- 2 情報発信の取組
 - (1) フェイスブックやインスタグラム、パブリシティなどによる情報発信
 - (2) 市町村、JA、JRさらには金融機関等への募集ポスター掲示等依頼
 - (3) 就農相談会等への積極的な参加による情報発信
- 3 高大連携の促進
 - (1) 高校への出前農大の実施
 - (2) 遠隔授業を活用した高校生への農大における課題研究等の紹介
 - (3) 高校PTA研修における農大見学の促進

運営方針2 質の高い教育の提供

【数値目標】日本農業技術検定3級相当の専門知識習得者80%以上
在学中に5個以上の資格取得者80%以上

《主な対策》

- 1 農業技術検定模擬試験の実施
 - (1) 農業技術検定未取得者に対し、模擬試験を実施
- 2 プロジェクト研究の高度化と地域課題への対応
 - (1) 農林水産研究指導センター・振興局、農業法人との連携プロジェクトの充実強化
 - (2) 九州大会・全国大会への出場を目指したプロジェクト指導の強化
 - (3) 表現力の向上を目指した作文コンクール等への応募促進
- 3 農業法人等の期待に応えられる学生の育成

- (1) 農業・農村のリーダー・指導者の育成を目指した「総合経営特別講座」の実施
- (2) 講義内容の充実
- (3) 各種資格取得の推進
- (4) G A P手法の実践とグローバルG A P認証に向けた学習の実施
- (5) 校内直売所や量販店等でのマーケティング調査の実施
- (6) 先進技術の研修充実
- (7) ドローン等を活用したスマート農業教育の推進
- (8) 特に新技術等の変化に対応したカリキュラムの編成

運営方針3 農業の担い手確保

【数値目標】 全学生・研修生の進路内定率100%
就農率80%以上

《主な対策》

1 農学部

- (1) 農業法人等との就職相談会の拡充
- (2) 農業法人等との情報交換および連携強化
- (3) 進路コーディネーターや担任による進路面談、受験指導の充実
- (4) インターンシップ等研修への参加促進
- (5) 保護者の農業視察研修による就農理解促進
- (6) 学生の資質向上と生活指導の徹底
- (7) 卒業生(過去3年)のフォローアップ指導

2 研修部

- (1) 就農に係る講義や先進農家研修による就農意欲の喚起
- (2) 振興局等との連携による就農支援
- (3) 進路コーディネーターによる就職支援
- (4) 就職・就農相談会等への積極的参加
- (5) 農業法人等求人情報の提供とマッチングの実施
- (6) 個別面談による研修生の要望や資質に応じた就農コーディネート
- (7) 新たな研修生確保のための SNS 等による情報発信強化

大分県立農業大学校 学校評価要領

平成 23 年 7 月 1 日 制定

(目的)

第 1 条 この要領は県農業の担い手育成のために求められる質の高い教育を提供するとともに、地域に根ざした開かれた大学校づくりを推進するため、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づき、大分県立農業大学校(以下「農大」という。)が行う学校評価について定める。

(自己評価)

第 2 条 農大校長は、教育・研修活動その他学校運営の改善を図るため、毎年度重点目標を定め、その達成に必要な評価項目などを設定の上、運営の状況等についての評価(以下「自己評価」という。)を行う。

2 自己評価を実施するため、別紙 1 に定める学内評価会議を設置する。

(外部評価委員会等)

第 3 条 農大が実施した自己評価の結果を踏まえた評価(以下「外部評価」という。)を行うため、農業大学校外部評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会は、校長が委嘱する別表 1 の委員で構成する。

3 委員の任期は 2 年とし、再任は妨げない。委員に欠員が生じたときは、これを補充することができることとし、その任期は前任者の残任期間とする。

4 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員が互選する。

5 委員長は委員会を掌理し、副委員長は委員長に事故ある場合はその職務を代理する。

6 農大校長は、外部評価等のため農大の運営・教育・研修の状況、自己評価の結果などについて委員会に報告する。

7 委員会は、外部評価の結果を学校運営に関する意見とともに農大校長に報告をする。

8 農大校長は、委員会からの報告をもとに必要な措置を講ずる。

(公表)

第 4 条 農大校長は、自己評価の結果及び外部評価の結果並びに意見について、農大のホームページなどに公表するとともに、大分県農林水産部新規就業・経営体支援課に報告する。

(その他)

第 5 条 自己評価の実施方法その他学校評価に関することは、農大校長が別に定める。

(別表1)

農業大学校外部評価委員

区 分	関係機関名	職 名
教育関係者	大分県高等学校 教育研究会農業部会	部 会 長
生 産 者	大分県指導農業士会	会 長
〃	大分県農業法人協会	会 長
〃	地元女性農業者	
〃	地元農業関係者	
卒 業 生	大分県立農業大学校同窓会	副 会 長
農業団体	大分県農業協同組合	常務(営農担当)
行 政	豊後大野市	農業振興課長
	大分県	中部振興局農山漁村振興部長

平成23年7月 1日 制定

平成24年4月 1日 改正

平成28年4月 1日 改正

平成31年4月26日 改正

令和 4年4月 1日 改正